

地域の個性発信に向けた「鳥取砂丘学」の構築

【概要】

鳥取砂丘は地域を代表するランドマークとなっており、観光地として活用されている。世界ジオパークネットワーク加盟の「山陰海岸ジオパーク」の中核的存在であり、山陰海岸国立公園の特別保護地区および国指定の天然記念物でもある。鳥取砂丘は植生制御をすすめる世界的にみて極めてユニークな存在でもある。このような鳥取砂丘の個性を解明するためには、国内外の類似砂丘地との比較研究が有用であり、大学の「知」が求められている。これに答えるべく自然環境学・人文学の両面から鳥取砂丘を総合的に研究する。その成果を「鳥取砂丘学」として構築し学生教育に活かす。卒業した学生が将来「砂丘の情報発信」を担うこととなる。このような教育研究活動を継続することで、鳥取砂丘の魅力アップに貢献すると同時に、地域からの情報発信のしかた方を、実践的に探る。

【キーワード】 鳥取砂丘学、自然の摂理、砂丘の利用史、芸術作品、比較砂丘学

【参加メンバー】 地域学部地域環境学科 教授 小玉芳敬
(総括、砂丘ジオ環境の研究、「鳥取砂丘学」の開設)
教授 鶴崎展巨 (砂丘動物の生態研究)
教授 永松 大 (砂丘の植生構造研究)
准教授 高田健一 (砂丘遺跡調査による砂丘利用史研究)
准教授 中原 計 (砂丘遺跡調査による古環境研究)
地域学部地域文化学科 准教授 北川扶生子 (砂丘に関する芸術作品の研究)

【計画】 平成 25 年度：1) 全学共通教育科目「鳥取砂丘学」開設に向けた準備
2) 砂丘遺跡・砂丘生物に関連する調査
3) 砂丘に関連した芸術作品の概要調査
4) 海外類似砂丘地との自然環境比較調査の推進
平成 26 年度：1) 全学共通教育科目「鳥取砂丘学」開設と評価
2) 北条砂丘・遠州灘砂丘・庄内砂丘など国内類似砂丘との比較調査の推進
3) 砂丘から浦富海岸の昆虫相とその生態調査
4) 砂丘遺跡の分布調査・出土遺物の検討
5) 戦前期の芸術思潮と砂丘の表象との関わりの調査
平成 27 年度：1) 全学共通教育科目「鳥取砂丘学」の改善とさらなる充実
2) 自然環境からみた鳥取砂丘の個性解明
3) 発掘による砂丘利用史・古植生の解明
4) 砂丘に関連する芸術作品が生まれた時代背景の解明

【地域連携先】 鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、鳥取県生活環境部砂丘事務所、
一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部、鳥取県生活環境部 緑豊かな自然課
山陰海岸世界ジオパーク推進室